

# 自ら問いを創ろう

愛知県立豊田南高等学校長 河合 龍二

本校は昭和55（1980）年4月、「豊田市南部に普通科高校を」という地域の皆様の熱い期待を受けて、若林の地に開校しました。校訓「全力」のもと、「たくましく生きる青年 たゆみなく学ぶ青年 心を大切に作る青年」を育てる努力を重ね41年目を迎えました。未曾有の疫禍による臨時休校で始まった今年度、意欲あふれる生徒・惜しみなく支援する教職員が主人公の「豊田南高校物語」を描き続けます。山あり谷あり泣きあり笑いあり対立あり融和あり、逆境を克服する物語です。

## ①「新型コロナウイルス感染症への対応」

部活動や学校行事は、密になることを前提として行われ、心を鍛えてきました。その前提が揺らいでいます。最も大切なのは命や健康ですが、心が折れたまま卒業してはいけません。生徒の不安に寄り添いつつ、心を鍛えます。

## ②「ICT活用による深い学びの実現」

## ③「教職員の働き方改革」

愛知県教育委員会主催「あいちラーニング推進事業～主体的に学び続ける生徒の育成を目指して～」の研究指定校となりました。アクティブラーニングルームを新設し、ICT環境を整えます。教師は対面授業の内容を精選し、生徒はオンラインで関心を深める「新しい学習様式」を創造します。この「ハイブリッド学習」によって他校の範となる気概があります。教師の働き方にも変化が生まれるはずです。「学習場所は学校、ドリル学習も集団で時間をかけて」という壁を超越します。教育の質を落とすことなく、生徒のスタディスポーツバランス・教職員のワークライフバランスを維持するため、斬新なアイデアを試し続けます。

これら三つの重点目標を達成するための合言葉が「自ら問いを創ろう」です。

教師と生徒との関係を馬子と馬にたとえることがあります。

馬子は、これからの遠い道のり、馬のことを考えて「今のうちに水を飲んでおけ」と水飲み場に連れていくことはできます。ただし、水を飲むか否かは馬次第。

教師は、これからの遠い道のり、生徒のことを考えて「今のうちに学問をしておけ」と学習の機会を与えることはできます。ただし、学問をするか否かは生徒次第。

馬の主体性を引き出すのは仲間の馬。馬には仲間がいて、「一緒に飲もうよ。」「飲んでみただけど案外おいしかったよ。」と語りかけてくれます。馬子が語らずとも、隣の馬が飲んでいる姿を見て、警戒することなく自分も飲みたくなります。

忘れてならないのはチームワークの大切さです。自立する個が集まってチームの士気が上がります。やらされているのではなく、自ら問いを創る意識の高い集団でありたいですね。対話に導かれた主体性あってこそ、全力を尽くせます。協働体験は気付きを生みます。答えのない問いに向き合い、多様な考え方が交錯する社会をリードする意欲につながります。困難と思えることも仲間と一緒に乗り越えられます。そんな先輩を見て後輩が育ちます。

さて、まだ見ぬ君も豊田南高校に集い、仲間とともに本校の「全力」を体感してください。逆境を克服した輝きが君の自信を深め、たくましく生き抜く力になると確信しています。